

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200194
法人名	有限会社ライフクリエーション
事業所名	グランマ「カノン」1F
所在地	静岡県浜松市西区村櫛町3963
自己評価作成日	令和4年 3月7日
評価結果市町村受理日	令和4年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosYoCd=2297200194-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階
訪問調査日	令和 4年 3月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今までの生活をなるべく継続出来るように、戸外へ出て散歩をしたり、食事の手伝い、洗濯物を干したり、畳んだり出来ることは自分で行ってもらっている。
 コロナ禍の為、ご家族にも可能な限り要望を聞き、ご本人の様子を頻りに報告したり、写真を送ったりして安心してもらえるように心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人が経営する2つのグループホームが広い敷地に併設されており、法人役員・施設長と管理者は、常に連絡を取り合い、情報を共有しながら事業所運営に当たっている。事業所併設の利点を活かし、運営推進会議等の委員会や家族会の交流イベントの共同開催や、利用者同士の交流も図られている。これまで継続してきた年2回の「家族会」はコロナの影響で1回の開催となったが、感染防止対策を徹底しながら、家族の面会に柔軟に対応している。
 自然環境に恵まれた立地条件を活かして事業所前の薔薇園の散策・近隣の散歩など、出来る限り戸外での活動を支援している。明るく広がりリビングにはソファを置いた談話スペースがあり、常に生花や絵画を飾り、日々季節を感じながらゆったりと情緒豊かに暮らすことができる。残存能力の維持を大切に考え、手作りの食事の手伝い、掃除・洗濯の手伝いなど、利用者の生活を見守る支援を心掛けている。感染防止対策として、常時換気・こまめな消毒に留意し、安全で清潔な環境作りを心掛けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人としての尊厳を大事にし、利用者が気持ちよく心穏やかに、個性を生かした生活が出来るようにしている。	法人理念を掲示し、常に確認しながら理念に基づいた支援を心掛けている。職員全員が参加する月例会議では、管理者や職員が事業所の課題や改善点について話し合い、理念の周知や確認を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で交流が減っているが、散歩時などで地元の方との挨拶他の継続。	コロナ禍の折、地域行事への参加は厳しく制限しているが、毎日の散歩時の挨拶など、近隣住民との交流を大切にしている。コロナ禍後を見据えて、隣接する同法人GHと共に、ボランティアや老人会「すずめの広場」との連絡を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設はいつでも開放しており、病院の受診時他にも近所の方の事も意識している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で直接顔を合わせてということは難しいが、手紙を送り返答をいただきながら、意見を活かしている。	コロナ禍により、2か月に1回書面開催で実施している。議事録を運営推進委員会委員に送り、委員からの意見を返信シートで収集して、必要な意見は月例会議にて情報を共有し、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の手紙や、直接渡す時、他に取り組みを伝えたり、ホームページにも毎月の取り組みが見られるようにしている。	運営推進会議議事録や関係資料を持参し、事業所の運営状況を説明するとともに、市からの意見や情報を得て、事業所の運営に反映している。施設長は、都度連絡を取り、顔の見える協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。 施錠もしていない。 研修も行っている。	身体拘束適正化委員会は、年6回、運営推進会議終了後に開催している。指針・マニュアルを整え、適正化委員会開催時には、テーマを決めた職員研修会も行い、身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいる。玄関は、防犯対策として夜間のみ施錠している。	

静岡県(グランマ「カノン」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全てが理解している。 常に意識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い、プリント他を職員に配り、理解できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に保証人と話をしている。 入所後に、理解されていないような事がある時は、納得するまで説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	なるべく面会、電話にて管理者が直接要望や意見を聞くようにしている。	これまで継続してきた「家族会」の年2回開催は、コロナ禍により1回の開催となったが、家族の面会については、感染防止対策を徹底しながら、自然に恵まれた施設の立地環境を活かして柔軟に対応している。管理者は、面会制限がある中、こまめな電話連絡にて家族との意見交換を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	風通しの良い職場を目指している。 なるべく話しやすくなるように、週に1回は必ず顔を合わせ会話をしている。	施設長・管理者は、共通の話題として図書を紹介したり、週に1度は個々に対話を行うことで、職員からの意見や悩みについて聴き取る工夫をしている。情報や課題は月例会議で取り上げ、職員間での意見交換と情報の共有を図っている。	職員との関係は良好であるが、人事考課として具体的な評価を行うことは、職員のスキルアップに重要なことであるため、今後は職員自ら作成する「業務自己目標シート」をもとに、管理者の評価が可視化できる仕組み作りの検討を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望は常に聞いている。 困っていることは早めに解決できるように心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれに得意とすることをメインに活動をしている。 他職員も理解している。		

静岡県(グランマ「カノン」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流するタイミングが合えば話をしている。隣の棟との交流はある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個性を大切にしている。不安なことがある時には、わかりやすく説明し、安心してもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に電話や面会時に顔を見て話をしている。趣味の話をする家族もいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意見を聞いて対応に努めている。必要と感ずることは相談し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、食事の手伝い他、一緒に行ったり、会話の中で教えて頂くこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ほとんどの家族が親を大切にしている。ホームページ他でも、なるべく様子がわかり安心してもらえるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今はコロナ禍で難しいが、面会に近所の方や親戚の方が来たり、電話で友人と会話をしたりしている。	コロナ禍の環境では難しい状況ではあるが、できる限り、これまで継続してきた家族や友人への電話連絡の支援を行っている。近隣住民との関係は良好で、散歩時の挨拶や農作物などの差し入れがあり、地域住民との関係継続を支援している。	

静岡県(グランマ「カノン」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	なるべく話が合いそうな方向同士を同じフロ アにしたり、席を近くしている。 孤立している方には、職員が関わりを持つ ようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所してからも何かあれば電話を頂いてい る。外で偶然お会いし、会話をすることもあ る。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	入所時に希望は聞いている。 基本台帳へも記入をしてもらっている。 困難な方には、職員間で話し合いながら支 援している。	管理者は、入居時に利用者・家族の要望を 「利用者基本台帳(基本情報)」に整理して、職 員回覧にて情報を提供している。職員は、 日々の気付きを確認しながら、都度意向に 沿った支援を心掛け、ケアプランに反映でき るように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	馴染みのある家具、洋服の使用。 可能である限りかかりつけ医の継続。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	心身状態の変化は、毎日の記録の中で職 員が共有し、話し合い対応をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	タブレット、日誌他で現状の把握をし、介護 計画に反映。 介護計画は3か月に1回作成している。	利用者の情報は「日誌」とタブレットを活用した 「業務日報」を基に、月例会議にてカンファ レンスをし、職員で情報を共有している。3か 月に1回、モニタリングに反映しながら見直し を行い、介護計画作成へと繋げている。	月例会議でのカンファレンスがより実効を 上げるため、介護計画更新対象月の前月 に、更新対象者のモニタリングの視点(ポ イント)を具体的に提示した資料を整え、職 員からの意見が出しやすい仕組みにつ いて、環境作りの検討を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌、タブレットで申し送りをし、情報を共有 している。		

静岡県(グランマ「カノン」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人対応を心掛けている。 本人・家族とも会話をし、できる限りの対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くにはガーデンパーク、浜名湖、海、山など自然に恵まれている。 刺激を求めて出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回職員が受診に付き添っている。受診記録に記入し、家族に報告をしている。 口腔ケアも往診に来てくれている。	近隣にある協力医へ毎月1回、職員が付き添い通院し、受診情報は家族・管理者・職員で共有している。歯科医は2か月に1回の往診がある。看護師は週1回訪問して利用者の健康管理をしているが、近隣に居住するため24時間対応で連絡を取ることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になる事、急変時には連絡を取り、指示をもらったり、診てもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院関係者に日ごろの様子や注意点をわかりやすく伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体的変化がある方、終末期を迎えている方には、家族にまめに連絡を取るようになっている。 家族の希望を医師に伝えている。	入居時に「重度化や終末期に関する方針」や事業所の対応を利用者・家族に丁寧に説明し、家族の希望を確認している。緊急時や重度化した際は、再度家族の意向を確認し、医療関係者と連携しながら、柔軟に対応する体制ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	出来ることは限られているが、初期対応は日頃から実践している。 早め早めに変化に気づき受診をしている。		

静岡県(グランマ「カノン」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	人数分のライフジャケット、ヘルメット、食料、紙パンツ他の備蓄をしている。 災害時の訓練もしている。水害時は2階へ避難をする。	災害別のマニュアルを整備し、年2回テーマを決めて災害対策訓練を実施している。訓練の課題について整理し、職員と情報共有しながら次回訓練に繋げている。備蓄品は、3日間を目途に水・食料をローリングストックで管理している。停電に備え、発電機の設置を検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに気をつけている。 本人・他の利用者が聞いていても不快に思われないように気をつけている。	個人情報保護について、入居時に説明し、写真掲載等の同意を得ている。個人情報や人格の尊厳について職員に課題が散見された時は、管理者は都度注意するとともに、必要な情報は月例会議で取り上げ、改善点について話し合い、確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に意思を聞くようにしている。 表情を観察するようにも心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれペースが違うため、なるべく希望も取り入れながら生活してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を選ぶ方もいる。 顔や髪の毛に気を使いたい方には、満足いくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	温かい食事、手作りの物、好みの食べたい物を聞き、メニューに加えたり、お出かけをして食べている。	近隣住民から地元野菜を調達できる環境を活かし、利用者の好みを取り入れた献立を考えて、3食職員手作りの食事を提供している。利用者の能力に合わせて、下ごしらえや配膳・下膳を共に行い、食事を楽しむ工夫を心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1口大、ミキサー食、とろみ食他1人1人に合わせた食事形態にしている。 食事介助もしている。		

静岡県(グランマ「カノン」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。 本人出来ない場合は、職員が介助を行っている。歯科医の往診もある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックはしている。 尿意がない方には、排泄の声かけを行っている。	タブレットの「排泄チェック表」に記録し、日々の体調を見守りながら、早めの声掛けによりトイレへ誘導する先回りケアを心掛けている。夜間はポータブルトイレの利用も考慮し、利用者の能力に合わせて安全と安心を確保した支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の散歩、水分摂取、果物、ヨーグルト他を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴がある。 なるべく前後一緒になる利用者さんは仲の良い方にしている。	3回/週の午前浴を基本としているが、利用者の体調や希望を考慮しながら、その時の状態に合わせて職員が柔軟に対応し、シャワー浴や時間を変えて、気持ち良く入浴できるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日順番で寝具の洗濯、外に干している。 休みたい方は、1時間程度ベッドで横になってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服用には、間違いのないようにチェックしている。 気になる事があれば医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味のある事、好きな事、嫌いな事は共有している。 なるべく気分転換するように心掛けたり、レクリエーションをしている。		

静岡県(グランマ「カノン」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今はコロナ禍であるため遠出の外出支援はできていないが、施設の自然環境を活かし外気浴を中心とできる範囲で支援を行っている。	コロナ禍の折、大勢で遠方への外出はできないが、自然環境に恵まれた施設の立地条件を活かし、感染防止対策に注意を払いながら、通院の際の外出や、事業所の庭園や周辺の散歩を外気浴を目的とした日課とするなど、工夫した支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望で、少額所持している方はいる。 今は買い物に出かけられない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からも希望があれば、いつでも電話ができる。 電話や手紙は本人に知らせ、やり取りをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混雑をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝職員が清掃をしている。 常に季節の花も飾るようにしている。 外からの日の光や風も入れている。	明るい採光の共有空間は、季節の花を飾りソファを配置して、利用者が好みの場所で過ごすことができる。寝具干しやこまめな掃除とともに、感染防止対策に十分注意を払い、常時換気やテーブルや共用部分の消毒を徹底して行い、安全で清潔な環境作りを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座って話をしたり、お互いの居室に行ったりと自由に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を置いている。 利用者の好みの配置にしている。	居室は、馴染みの家具や思い出ある小物を持ち込み、利用者の希望に合わせて家具の配置を工夫して、過ごしやすい部屋作りを支援している。感染防止対策に注意を払い、室内の清掃とドアノブなどの定期的な消毒を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング・居室も広々して移動しやすい。 シンプルな作りになっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200194		
法人名	有限会社ライフクリエーション		
事業所名	グランマ「カノン」2F		
所在地	静岡県浜松市西区村櫛町3963		
自己評価作成日	令和4年3月7日	評価結果市町村受理日	令和4年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2297200194-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4年 3月 21 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今までの生活をなるべく継続出来るように、戸外へ出て散歩をしたり、食事の手伝い、洗濯物を干したり、畳んだりと出来ることは自分で行ってもらっている。コロナ禍の為、ご家族にも可能な限り要望を聞き、ご本人の様子を頻繁に報告したり、写真を送ったりして安心してもらえるように心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人としての尊厳を大事にし、利用者が気持ちよく心穏やかに、個性を生かした生活が出来るようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で交流が減っているが、散歩時などで地元の方との挨拶他の継続。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設はいつでも開放しており、病院の受診時他にも近所の方の事も意識している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で直接顔を合わせてということは難しいが、手紙を送り返答をいただきながら、意見を活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の手紙や、直接渡す時、他に取り組みを伝えたり、ホームページにも毎月の取り組みが見られるようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。 施錠もしていない。 研修も行っている。		

静岡県(グランマ「カノン」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全てが理解している。 常に意識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い、プリント等を職員に配り、理解できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に保証人と話をしている。 入所後に、理解されていないような事がある時は、納得するまで説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	なるべく面会、電話にて管理者が直接要望や意見を聞くようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	風通しの良い職場を目指している。 なるべく話しやすくなるように、週に1回は必ず顔を合わせ会話をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望は常に聞いている。 困っていることは早めに解決できるように心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれに得意とすることをメインに活動をしている。 他職員も理解している。		

静岡県(グランマ「カノン」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流するタイミングが合えば話をしている。隣りの棟との交流はある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個性を大切にしている。不安なことがある時には、わかりやすく説明し、安心してもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に電話や面会時に顔を見て話をしている。趣味の話をする家族もいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意見を聞いて対応に努めている。必要と感ずることは相談し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、食事の手伝い他、一緒に行ったり、会話の中で教えて頂くこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ほとんどの家族が親を大切にしている。ホームページ他でも、なるべく様子がわかり安心してもらえるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今はコロナ禍で難しいが、面会に近所の方や親戚の方が来たり、電話で友人と会話をしたりしている。		

静岡県(グランマ「カノン」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく話が合いそうな方同士を同じフロアーにしたり、席を近くにしている。 孤立している方には、職員が関わりを持つようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所してからも何かあれば電話を頂いている。外で偶然お会いし、会話をすることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に希望は聞いている。 基本台帳へも記入をしてもらっている。 困難な方には、職員間で話し合いながら支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みのある家具、洋服の使用。 可能である限りかかりつけ医の継続。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態の変化は、毎日の記録の中で職員が共有し、話し合い対応をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	タブレット、日誌等で現状の把握をし、介護計画に反映。 介護計画は3か月に1回作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌、タブレットで申し送りをし、情報を共有している。		

静岡県(グランマ「カノン」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人対応を心掛けている。 本人・家族とも会話をし、できる限りの対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くにはガーデンパーク、浜名湖、海、山など自然に恵まれている。 刺激を求めて出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回職員が受診に付き添っている。受診記録に記入し、家族に報告をしている。 口腔ケアも往診に来てくれている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になる事、急変時には連絡を取り、指示をもらったり、診てもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院関係者に日ごろの様子や注意点をわかりやすく伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体的変化がある方、終末期を迎えている方には、家族にまめに連絡を取るようになっている。 家族の希望を医師に伝えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	出来ることは限られているが、初期対応は日頃から実践している。 早め早めに変化に気づき受診をしている。		

静岡県(グランマ「カノン」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	人数分のライフジャケット、ヘルメット、食料、紙パンツ他の備蓄をしている。 災害時の訓練もしている。水害時は2階へ避難をする。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに気をつけている。 本人・他の利用者が聞いていても不快に思われないように気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に意思を聞くようにしている。 表情を観察するようにも心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれペースが違うため、なるべく希望も取り入れながら生活をしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で洋服を選ぶ方もいる。 顔や髪の毛に気を使いたい方には、満足いくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	温かい食事、手作りの物、時には食べたい物を聞き、メニューに加えたり、お出かけをして食べている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1口大、ミキサー食、とろみ食他1人1人に合わせた食事形態にしている。 食事介助もしている。		

静岡県(グランマ「カノン」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。 本人出来ない場合は、職員が介助を行っている。歯科医の往診もある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックはしている。 尿意がない方には、排泄の声かけを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の散歩、水分摂取、果物、ヨーグルト他を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴がある。 なるべく前後一緒になる利用者さんは仲の良い方にしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日順番で寝具の洗濯、外に干している。 休みたい方は、1時間程度ベッドで横になってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服用には、間違いのないようにチェックしている。 気になる事があれば医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味のある事、好きな事、嫌いな事は共有している。 なるべく気分転換するように心掛けたり、レクリエーションをしている。		

静岡県(グランマ「カノン」)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今はコロナ禍でできていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望で、少額所持している方はいる。 今は買い物に出かけられない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からも希望があれば、いつでも電話ができる。 電話や手紙は本人に知らせ、やり取りをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝職員が清掃をしている。 常に季節の花も飾るようにしている。 外からの日の光や風も入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座って話をしたり、お互いの居室に行ったりと自由に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を置いている。 利用者の好みの配置にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	リビング・居室も広々して移動しやすい。 シンプルな作りになっている。		